



子どもを観る目を育てる

園長 高麗 正夫

「みる」という漢字には、いろいろな意味があります。「見る」は、風景等を見るときに使います。この見るは、表面上を見る時に使うため、写真やビデオのようなものです。「鑑る」は、美術館へ行って、絵画や彫刻を鑑賞するときに使います。また、「看る」は、病人を診察したりするときに使います。「観る」は、子どもの行動を観て、観察し、どうして、喜んだり、うれしかったり、笑ったり、あるいは泣いたり、悲しんだり、怒ったりして手が出たりするのか推察します。その時子どもに声を掛けて理由を聞くこともあります。

就任1年目の先生は、子どもを観る目を育てるため、日々のクラスの子どもの記録の他に、クラスの友だち2～3名を1年間観察します。ただ、観ているだけでは、観る目が育たないため、記録を取るようになっています。記録は、1学期に1回園長に提出します。記録を取ることは、今後の保育をしていく上で大変重要なことです。こうま幼稚園の先生は、全員新任の時に1年間記録を取って提出しています。その習慣があるため、週案に毎日一人ずつ記録を付けています。この記録は2学期終わりの個人面談の参考にしたり、さらに、年度末の指導要録作成の資料にもなります。

指導要録は、卒園して20年間保存しなければならない。こうま幼稚園では、1期生から全て保存し、49年分を保存してあります。子どもを観る目は、保育の経験を積み重ねる事により、さらに観える様になります。

3階の職員室にいと、隣のホールから子ども会の練習の子ども達の声とピアノの音が聞こえて来ます。子どもたちは、子ども会に保護者が観に来てくれるのを楽しみにしている反面、大勢のお客さんがいることにより、ドキドキする気持ち（緊張）があるようです。

保護者から「子ども会の本番は緊張するため、練習の時、上手にできたところをビデオ撮影してほしい」と言われました。ビデオ会社に2回撮影を依頼すると、約2倍のDVD代になるため、できませんとお断りしました。

甲子園の野球大会、オリンピック等、本番は1回限りです。緊張を乗り越えるためには経験しかありません。緊張の場から逃げていたら、いつまでたっても、緊張を乗り越えられないし、成長もしません。緊張して失敗しても、「次、頑張ろうと思う」諦めない気持ちが大切です。

※3/8謝恩会は年長のみ。満三、年少、年中はお休みです。